3-2 関東・東海地域における最近の地震活動 (1981年11月~1982年4月)

Recent Seismic Activities in the Kanto-Tokai Area (November, 1981 - April, 1982)

国立防災科学技術センター National Research Center for Disaster Prevention

防災センターの関東・東海地域地殻活動観測網による観測点ごとの日別地震回数を第1図に, 月ごとの震源分布を第2図に示す。

本報告期間の地震観測点は36ヵ所で,その座標等は前報¹⁾に示されている。この間の特に注 目すべき地震活動は以下の通りである。

- (1) 11月25日23時53分,東京都西部に顕著な稍深発地震が発生した(H=117Km, M = 4.5)。
- (2) 11月~12月に駿河湾北部の富士川河口付近にあいついで2個の微小地震が発生した:
 11月28日09時11分 H=15Km M=2.4
 12月13日00時17分 H=17Km M=2.9
- (3) 1月から3月にかけて房総半島沖に活発な地震活動が見られた。まず,1月上旬に下記のM4クラスの地震を含むやや深い活動が鴨川付近に発生した:
 - 1月 8日06時17分 H=70Km M=4.3
 - 1月10日15時47分 H = 86Km M=4.2

ついで、2月21日04時18分に房総半島はるか南東沖にM=6.4(気象庁)の浅い地震が 起こり、多数の余震が続発した。第1図(4)では北西-南東方向に長軸をもつ余震分布とな っているが、震源決定上の見かけの形状である可能生があるので今後の検討を要する。さ らに3月27日09時19分には、2月の活動より約100Km北方の海域でM=5.8の浅い地 震が発生し、多数の余震が続いた。この震源域と鴨川を結ぶ線上にも、主震にひき続いて 幾つかの地震が起こっていることが注目される。なお、2月21日、3月27日の地震とも に、少くとも震源決定できる程度の前震は伴わなかった。

- (4) 2月26日07時44分,静岡県中部にやや顕著な地震が発生した(H=31Km, M = 3.9)。
 前震・余震とも捕えられていない。
- (5) 3月7日08時14分,水戸付近に中規模の地震が発生した(H = 46Km, M = 5.1)。 鹿島灘の地震多発域とは異り,震源が内陸にはいりこんでいることが注目される。

(6) 3月7日頃から伊豆半島東岸の川奈崎付近で小規模な群発活動が始まり,月末までにほ ぼ終息した(最大地震は M=2.4)。詳しくは別報²⁾を参照されたい。

参考文献

- 1) 国立防災科学技術センター:関東・東海地域における最近の地震活動(1981年4月~ 10月),連絡会報,27(1982),74-86.
- 2) 国立防災科学技術センター:1982年3月伊豆半島東岸の群発地震活動について,連絡会報,28(1982),173-177.



Fig. 1 Daily frequency of earthquakes for each station. Only at OHR, the shocks from 06:00 to 18:00 are rejected from counting to eliminate quarry blasts. Numerals are threshold levels of amplitude for counting the number of earthquakes. Broken bars and shaded portions mean partial breaks of observation within one day and for more than one day, respectively.



-80-



-81-



-82-



-83-



-84-



-85-

第1図つづき Fig.1 (Continued)

第2図つづき Fig.2 (Continued)

第2図つづき Fig.2 (Continued)